

第2章 滝遺跡第20地点の本調査

I 遺跡の立地と環境

滝遺跡は武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面の台地東側をおりた一段低い立川段丘面の縁に立地している。

「滝」の地名は、近年までこの段丘上から滝が落ちていたことに由来する。北西側は段丘面、北東側は新河岸川を挟んで荒川低地の沖積地と接し、南側は排水溝として利用される緩やかな小支谷を流れる旧清水に挟まれ、標高9～12 m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北250 m、東西500 m以上ある。宅地開発が進むが部分的に畑が残っている。

周辺の遺跡は、北西側の段丘上に縄文時代前期、中期、晩期、古墳時代の遺跡である著名な上福岡貝塚と権現山遺跡群が新河岸川沿いに並び、旧清水を挟んだ南側には、縄文時代、飛鳥時代、中・近世の長宮遺跡が広がる。

1976年以降宅地開発等に伴う緊急調査が増加し、遺跡の谷口に当たる旧丸橋遺跡(1981年の変更増補で滝遺跡と合併)で古墳時代前期と後期の住居跡を

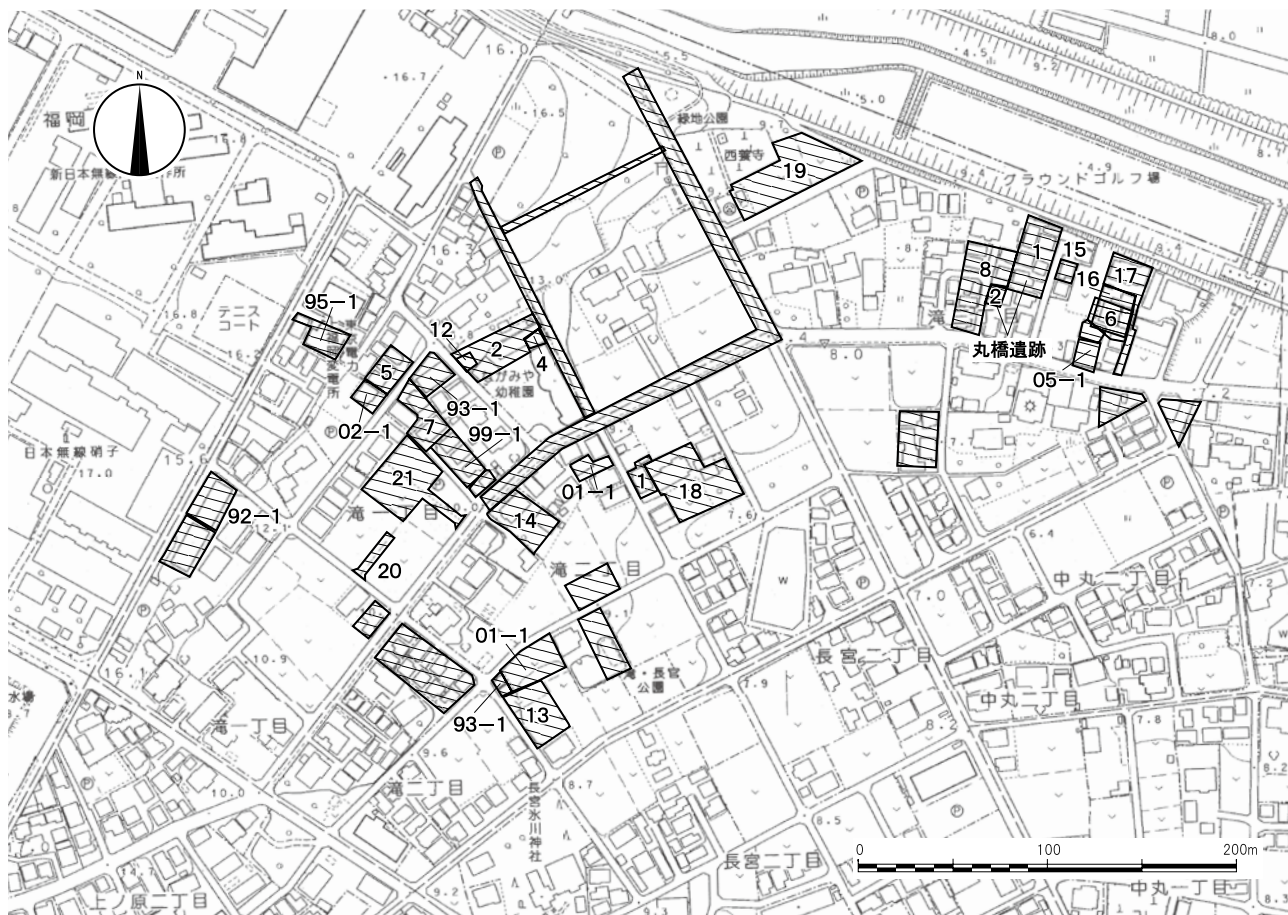
検出以来21ヶ所で調査が行われている。なお、本遺跡の第3・5・9～11次調査、1995年度試掘調査・2002年度試掘調査(1)は権現山遺跡の範囲に入っているため、今後は本遺跡では欠番とし、権現山遺跡1・2・5～7・14・17地点とする。

遺跡の主たる時代と遺構は、縄文時代早期・前期の土坑、古墳時代から奈良・平安時代の住居跡、近世の段切り遺構(集石を伴う)である。

II 調査に至る経過と調査の概要

調査は道路築造に伴うもので、原因者より2012年4月10日付けで「埋蔵文化財包蔵地の開発事前協議書」(以下「埋蔵文化財事前協議書」)がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内に位置するため、原因者と協議の結果、遺構等の存在を確認するための試掘調査を実施した。

試掘調査は2012年5月9日から11日まで行った。幅約3 mのトレンチ1本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った結果、平安時代の住



第3図 滝遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

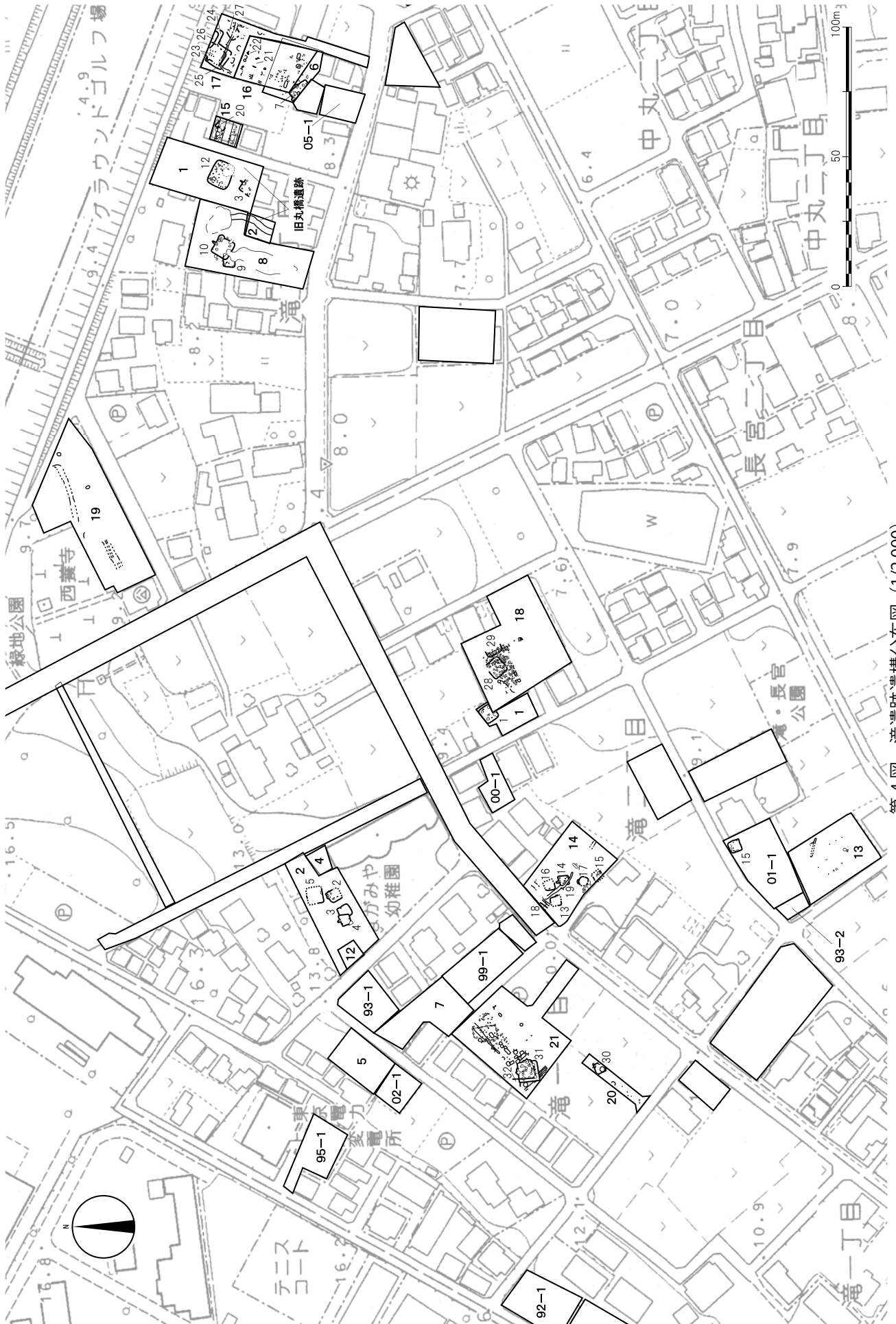
第2表 滝遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書	備 考
丸橋1次	滝3-3-77～81	(1976.6.26・27) 1976.7.24～8.12	543	建売住宅	古墳前期住居1・後期住居1	上福岡市遺跡調査報告書	丸橋遺跡は滝遺跡へ統合
丸橋2次	滝3-3-13	1978.7.26～8.6	210	住宅建設	古墳前期土坑1・現代溝1	埋蔵文化財の調査(Ⅰ)	
1次	滝2-6-11	1978.10.2～13	129	住宅建設	住居跡1、土師器	埋蔵文化財の調査(Ⅰ)	
2次	滝1-4-2	1979.4.15～5.7	278	幼稚園ブル	住居跡5、周溝、土坑、長甕、土器	埋蔵文化財の調査(Ⅱ)	
3次	滝1-4-15	1980.6.27～7.3	76	住宅建設	権現山遺跡1地点に変更。欠番とする。	埋蔵文化財の調査(Ⅲ)	権現山遺跡へ変更
4次	滝1-4-15	1980.7.7～12	105	住宅建設	遺構なし、平安土師器片	埋蔵文化財の調査(Ⅲ)	
5次	滝1-3-21	1980.7.20～31	330	住宅建設	権現山遺跡2地点に変更。欠番とする。	埋蔵文化財の調査(Ⅲ)	権現山遺跡へ変更
6次	滝3-3-6	1980.11.20～12.2	166	住宅建設	縄文土坑、奈良住居跡2、縄文早期土器、石器、奈良土器他	埋蔵文化財の調査(Ⅲ)	
7次	滝1-1-19	1981.7.30～31	400	個人住宅	遺構なし、縄文土器片	埋蔵文化財の調査(Ⅳ)	
8次	滝3-3-15他	1983.11.14～26	990	住宅建設	古墳住居2	埋蔵文化財の調査(Ⅴ)	
9次	滝1-4-4	1984.5.11～22	466	住宅建設	権現山遺跡5地点に変更。欠番とする。	埋蔵文化財の調査(Ⅶ)	権現山遺跡へ変更
10次	滝1-3-17	1984.6.1～12	363	住宅建設	権現山遺跡6地点に変更。欠番とする。	埋蔵文化財の調査(Ⅶ)	権現山遺跡へ変更
11次	滝1-4-2	1984.6.28～30	33	物置建設	権現山遺跡7地点に変更。欠番とする。	埋蔵文化財の調査(Ⅶ)	権現山遺跡へ変更
12次	滝1-4-2	1984.12.22～24	94	住宅建設	なし	埋蔵文化財の調査(Ⅶ)	
92試(1)	滝1-2-14の一部	(1992.7.6～8)	400	倉庫建設	なし	埋蔵文化財の調査(15)	
93試(1)	滝1-1-4	(1993.4.23～28)	313	共同住宅	なし	埋蔵文化財の調査(16)	
93試(2)	滝2-2-7	(1993.8.25)	99	個人住宅	なし	埋蔵文化財の調査(16)	
95試(1)	滝1-3-13	(1995.11.27～30)	462	共同住宅	権現山遺跡14地点に変更。欠番とする。	埋蔵文化財の調査(18)	
99試(1)	滝1-1-6	(1999.10.21～26)	511	宅地造成(土地分譲)	なし	埋蔵文化財の調査(22)	
00試(1)	滝2-5-20	(2001.1.23～24)	154	個人住宅	なし	埋蔵文化財の調査(23)	
01試(1)	滝2-2-8	(2001.4.17～20)	519	共同住宅	奈良初頭住居跡1	埋蔵文化財の調査(24)	
02試(1)	滝1-3-49	(2002.5.29～30)	165	個人住宅	権現山遺跡17地点に変更。欠番とする。	埋蔵文化財の調査(25)	
05試(1)	滝3-3-5・3-143	(2005.6.24～27)	350	個人住宅	なし	市内遺跡群1	
立会	滝1-4-1・26-27	(2006.4.15)	2,492	幼稚園	なし		
12	滝2-5-3、5-4の一部	2007.2.6	472	個人住宅	なし	市内遺跡群3	
13	滝2-2-6	2007.10.24～11.1	737	共同住宅	焼土範囲2箇所、ピット8	市内遺跡群4	
14	滝2-5-11・17	(2007.11.8～19) 11.20～12.6	692	分譲住宅	住居跡7軒、溝3条、井戸1基、須恵器、土師器	市内遺跡群4	
15	滝3-3-84	(2009.9.2～14) 10.23～11.6	100	分譲住宅	8世紀住居跡1軒、井戸1、土坑8、ピット20、須恵器、土師器、紡錘車	市内遺跡群7	
16	滝3-145	(2009.12.2～14)	434	宅地造成	ピット3	市内遺跡群8	
17	滝3-3-6、3-144	(2010.5.6～6.18)	331	分譲住宅	奈良平安時代住居跡5軒、井戸1、土坑4、溝2、集石	市内遺跡群10	
18	滝2-6-4、6-6	(2011.6.6～13) 6.14～7.6	1,164	個人住宅	縄文時代落とし穴1、古墳時代住居跡2軒他、土師器、近世陶磁器等	未報告	
19	滝3-4-2	(2011.10.17～24)	1,277	分譲住宅	なし	未報告	
20	滝1-8、1-9	(2012.5.9～11)	124	道路築造	住居跡1軒、時期不明井戸、土坑、ピット	市内遺跡群12	
21	滝1-1-7、1-26、1-31	(2012.5.11～21) 7.17～8.25	1,176	共同住宅	奈良平安時代鍛冶炉付住居跡1軒(H31)・奈良平安時代住居跡2軒(H32,H33)、掘立柱建物跡、井戸、溝、土坑、ピット、須恵器、土師器、鍛冶関連遺物他	市内遺跡群12	

※埋：上福岡市教育委員会埋蔵文化財の調査報告書、上遺調：上福岡市遺跡調査会報告書、教要：上福岡市教育要覧、市内：ふじみ野市市内遺跡群報告書

第3表 滝遺跡古代住居跡一覧表 (単位 cm)

新 住居 番号	旧 調査 年度	調査名	調査率	平面形 ()は推定	規模 ()は残存 又は推定値	炉 竈・K	設置 壁・炉 位置	カマド・炉規模 長軸 幅	周溝	主 軸 方 向	時 期	備 考	文 献
1	1978	第1次1号住居	5/6	隅丸方形	640×(580)×40	炉	中央 西寄り	115 70	○	S-55-W	4世紀前半	4本主柱穴、方形貯蔵穴110×95×40	埋蔵文化財の調査Ⅰ
2	1979	第2次2号住居	ほぼ完掘	正方形	(460)×470×45	K	北	106	○	N-32-W	7世紀前半	焼失住居、方形貯蔵穴62×55×45	埋蔵文化財の調査Ⅱ
3	1978	丸橋第1次3号住居	2/3	正方形	(510×470)×15	K	北東	210 102	○	N-38-W	7世紀前半	焼失住居、(4本主柱穴)	上福岡市遺跡調査報告書
6		第2次3号住居	完掘	方形	(480×460)×15	—	—	—	○	—	9世紀前半		埋蔵文化財の調査Ⅱ
4	1979	第2次4号住居	ほぼ完掘	長方形	南北340×東西380～ 415×30	K	北	160 110	○	N-14-W	8世紀前半		埋蔵文化財の調査Ⅱ
5	1979	第2次5号住居	3/8	(正方形)	(490)×610×60	—	—	—	○	不明	8世紀前半	竈は調査区外未調査	埋蔵文化財の調査Ⅱ
—	1980	第3次5号住居	1/5	不明	(260×270)×30	—	—	—	○	不明	4世紀前半	権現山遺跡1号住居跡に変更	埋蔵文化財の調査Ⅲ
7	1980	第6次7号住居	1/3	正方形	620×(250)×12	K2基	A竈：北 B竈：西	115×90 122×90	○	N-52-E N-37-W	7世紀前半	建て替わり、不整形 貯蔵穴175×95×20、 床面焼土範囲有	埋蔵文化財の調査Ⅲ
8	2001	2001年度範囲確認 調査第15号住居跡	完掘	方形	400×400×	K	北	不明 不明	○	不明	(8世紀前半)	今後15号住居跡から8号 住居跡に名称変更	埋蔵文化財の調査24
9	1983	第8次9号住居	2/3	隅丸方形	(500)×470×20	炉3	中央北 西寄り	60×40、(35) ×32、40×32	○	—	4世紀前半	焼失住居、床面硬化 範囲2ヶ所	埋蔵文化財の調査Ⅵ
10	1983	第8次10号住居	完掘	正方形	690×660×15	K	北東	215 125	○	N-52-E	6世紀前半	4本主柱穴、方形貯蔵穴(80)×75×35	埋蔵文化財の調査Ⅶ
11	1984	第10次11号住居	完掘	隅丸方形	445×(380)×35	K	北	115 95	○	N-5-W	6世紀前半	権現山遺跡に変更	埋蔵文化財の調査Ⅶ
12	1978	丸橋第1次 12号住居	ほぼ完掘	隅丸長方形	980×770×20	土器 囲炉	北部	140 100	○	N-54-W N-36-E	4世紀前半	床面焼土点在	市史史料編第1巻
13	2007	第14次13号住居	1/2	方形	370×370×45	K	東	90 65	○	N-36-E		貼床	市内遺跡群4
14	2007	第14次14号住居	4/5	(長方形)	385×(380)×202	K	北	171 82	○	真北	8世紀前半	比企型坏多数出土、貼床	市内遺跡群4
15	2007	第14次15号住居	1/3	不明	(370×-)×20	—	—	—	—	—		竈未検出、貼床	市内遺跡群4
16	2007	第14次16号住居	1/4	不明	(250×170)×40	—	—	—	○	—		竈未検出、貼床	市内遺跡群4
17	2007	第14次17号住居	1/3	不明	(344×360)×102	—	—	—	○	—		竈未検出、貼床	市内遺跡群4
18	2008	第14次18号住居	1/5	不明	(297×270)×30	—	—	—	○	—		竈未検出、貼床	市内遺跡群4
19	2008	第14次19号住居	1/5	不明	(450×-)×350	K	北	(85) (82)	—	—	8世紀前半～	14号住居より新しい	市内遺跡群4
20	2009	H20号住居	2/3	隅丸長方形	370×350×398	—	—	—	—	—	8世紀		市内遺跡群7
21	2009	H21号住居	一部	不明	285×(135)×	K	東						市内遺跡群8
22	2009	H22号住居	一部	不明	×	×							市内遺跡群8
23	2010	H23号住居	プラン	長方形	595×700×27	K	北			N-46-W	8世紀	H24、H25住居より新	市内遺跡群10
24	2010	H24号住居	プラン	(方形)	590×(265)×30						8世紀	H23、H26住居より古、H25住居より新。	市内遺跡群10
25	2010	H25号住居	プラン	長方形	810×700×12					N-46-W	7世紀	H23、H24住居より古	市内遺跡群10
26	2010	H26号住居	プラン	(方形)	450×(110)×40						8世紀	H24住居より新	市内遺跡群10
27	2010	H27号住居	プラン	方形	420×400×10								市内遺跡群10
28		欠番		×	×								
29		欠番		×	×								
30	2012	H30号住居	4/5	方形	410×390×5	K	東		○	N-75-E	9世紀		市内遺跡群12
31	2012	H31A号住居	完掘	方形	780×770×50	K	北・東	95 130	○	N-92-E	8世紀前半		市内遺跡群12
31	2012	H31B号住居	完掘	方形	640×640×50	K	北	135 170	○	N-2-E	8世紀前半	鍛冶炉	市内遺跡群12
32	2012	H32号住居	一部	(方形)	×	×						保存のため未調査	市内遺跡群12
33	2012	H33号住居	一部	(方形)	×	×				N-0-E		保存のため未調査	市内遺跡群12



第4図 滝遺跡遺構分布図 (1/2,000)

居跡、井戸、土坑、ピット等を確認した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

地表面から遺構確認面までの深さは約110 cmであるが、雨水浸透井戸等の掘削で開発による遺跡への影響が避けられないため原因者と再度協議の結果、原因者負担による本調査を実施した。

本調査は2012年5月17日から5月24日まで行い、検出した奈良時代住居跡1軒、時期不明の井戸2基、土坑2基、ピット7基を調査した。

Ⅲ 遺構と遺物

① H 30 号住居跡

【位置】遺跡の南西部に位置し、住居跡全体の約3/4を検出した。北東角を土坑1に、南西部を井戸2によって壊されている。

【形状・規模】南東角部分は調査区域外に張り出す。

主軸方位はN-75°-E、東壁の南側に竈を備える。

平面形態は隅丸方形、規模は主軸の東西方向4.1 m×南北3.9 m、確認面からの深さ5 cmである。

【竈】住居跡東壁の南側に構築される。南半分は調査区域外である。左側の袖は灰褐色粘土で構築され、壁から40 cm突出し、幅45 cm、高さ18 cmを測る。煙道部分は壁から奥へ20 cm粘土が伸びている。竈中央は深さ10 cmほどの窪みがあり、奥が良く焼け焼土面がみられる。竈の左側手前には平面楕円形で93×64 cm、深さ10 cmの浅い窪みがあり、土製の支脚が出土している。

【貼床・周溝】厚さ1～4 cmの貼床がみられる。周溝

は北東壁の一部と竈の前部分で途切れる。幅5～15 cm下幅2～6 cm深さ2.8～8.2 cmである。

【遺物出土状況・出土遺物】竈内と竈周辺部の床面から出土する。

【時期】出土遺物から9世紀。

② 井戸

井戸1は調査区中央北側に位置する。南側半分を検出したが試掘調査のため全容は不明である。検出部の平面形態は半円形で、規模は確認面径140 cmで、深さは地表面から約1.6 m、確認面からは50 cmまで確認した。時期は不明。

井戸2はH30号住居跡の南東部に位置し、住居を壊して構築されている。道路築造に際し確認面より下は保護されるため、井戸の半分を掘り下げたに留めた。底面は確認していない。平面形は東側がやや突出した円形を呈し、中段の形は隅丸の方形を呈するようである。212×188 cm、深さは地表面から約2.2 m、確認面からは120 cmまで確認した。

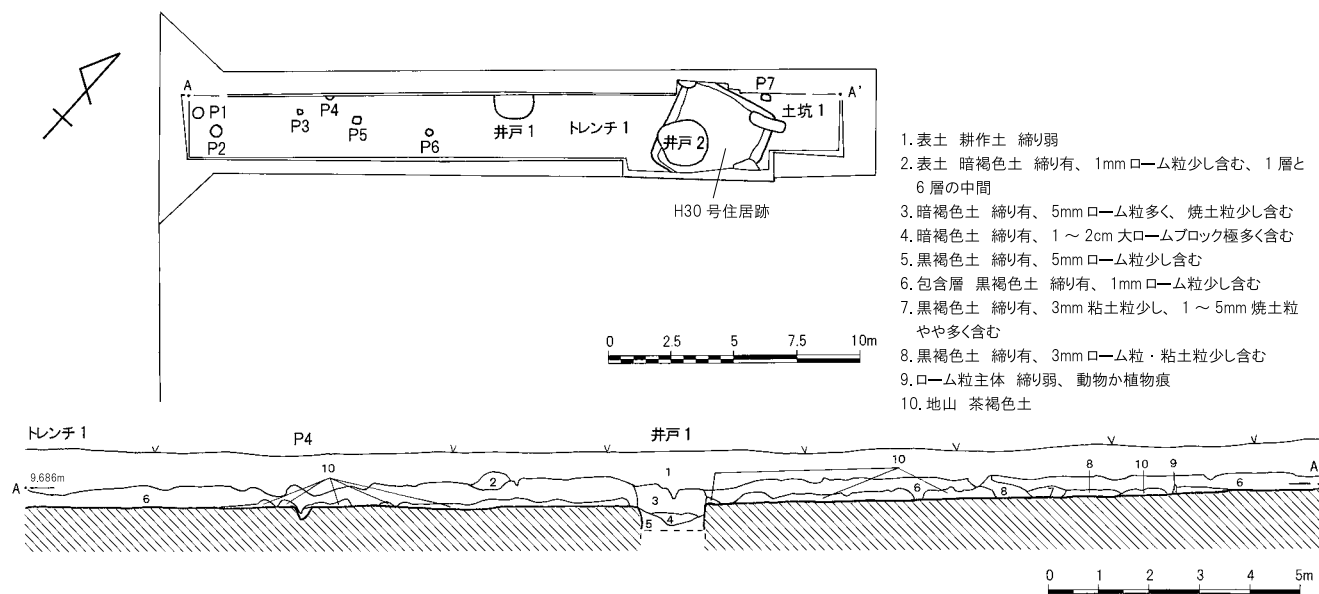
③ 土坑

土坑1は調査区の西端、H30号住居跡を壊して構築される。145×46 cmの長円形、深さは確認面から5～10 cmと浅い。

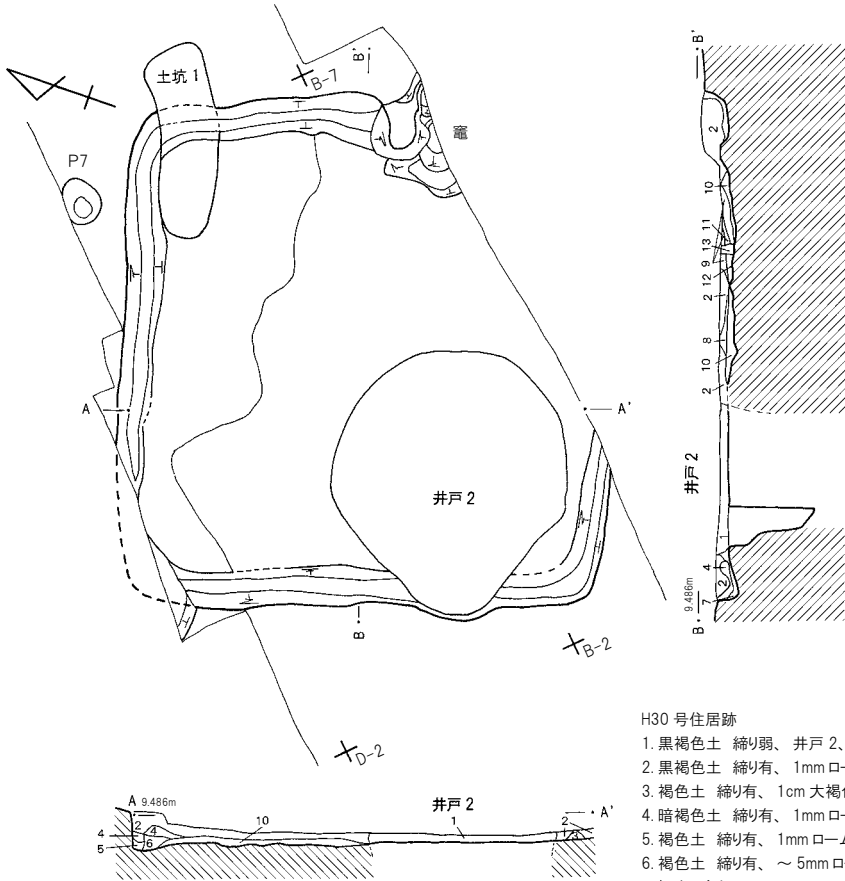
土坑2は調査区の北西側、H30号住居跡を壊して構築される。大部分は調査区外で形態不明。深さは32 cmある。

④ ピット

7基検出した。計測値等の詳細は第4表参照。



第5図 滝遺跡第20地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)

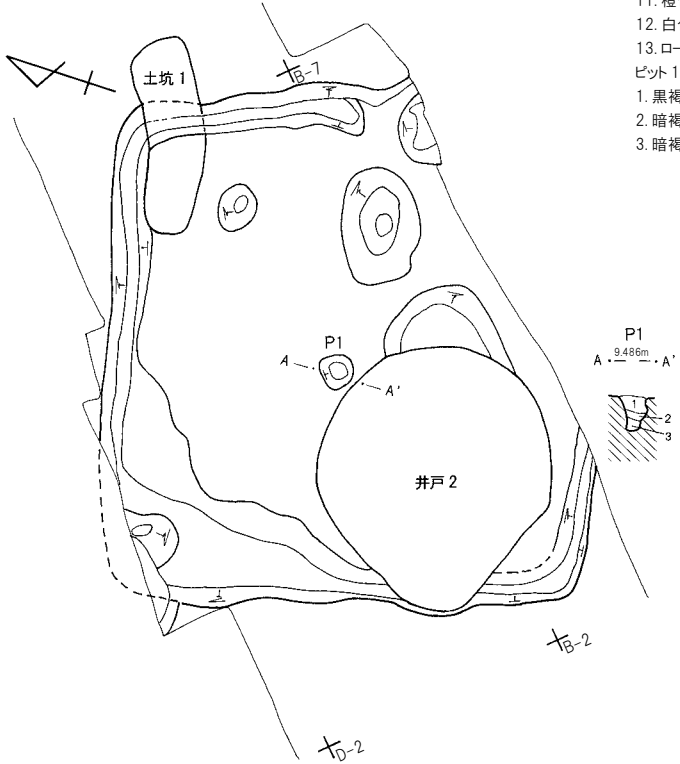


- H30 号住居跡
1. 黒褐色土 締り弱、井戸 2、1mm ローム粒極少し含む
 2. 黒褐色土 締り有、1mm ローム粒・粘土粒・炭・1～2mm 焼土粒少し含む
 3. 褐色土 締り有、1cm 大褐色ロームブロック・1mm ローム粒・粘土粒少し含む
 4. 暗褐色土 締り有、1mm ローム粒・粘土粒・炭少し、1mm 焼土粒極少し含む
 5. 褐色土 締り有、1mm ローム粒やや多く含む
 6. 褐色土 締り有、～5mm ローム粒多く、～3mm 粘土粒多く、1mm 炭少し、1mm 焼土粒極少し含む
 7. 黄褐色土 締り有、～3cm 大ロームブロック主体、暗褐色土混入
 8. 暗褐色土 締り有、～3mm ローム粒・5cm 大粘土多く、1mm 焼土粒少し含む
 9. 白色粘土 締り有、焼けた粘土も混入
 10. 黄褐色土 非常に硬く締る、ロームブロックと黒褐色土の混合土、一部焼土粒多量に含む、貼床
 11. 橙色に焼けた粘土 非常に硬い
 12. 白色粘土と橙色粘土とロームの混合土 非常に締り有硬い、～5mm 炭多く含む
 13. ローム粒主体 締り有
- ピット 1
1. 黒褐色土 締り弱、3mm ローム粒多く含む
 2. 暗褐色土の塊
 3. 暗褐色土 締り有、1mm ローム粒少し含む

第 4 表 滝遺跡第 20 地点遺構一覧表 (単位 cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
井戸 1	不明	140 × 79	124 × 63	57	
井戸 2	円形	210 × 187	120 × (82)	112	土器、羽口
土坑 1	長方形	155 × 43	143 × 35	17	土器
P1	方形	35 × 33	17 × 17	47	
P2	円形	54 × 50	18 × 18	78	土器
P3	円形	28 × 27	17 × 10	41	
P4	不明	30 × (20)	15 × 11	26	
P5	方形	25 × 22	13 × 10	18	
P6	方形	41 × 31	4 × 2	35	
P7	円形	36 × 29	16 × 13	17	
住居内 P1	方形	27 × 27	14 × 12	34	土器

掘方



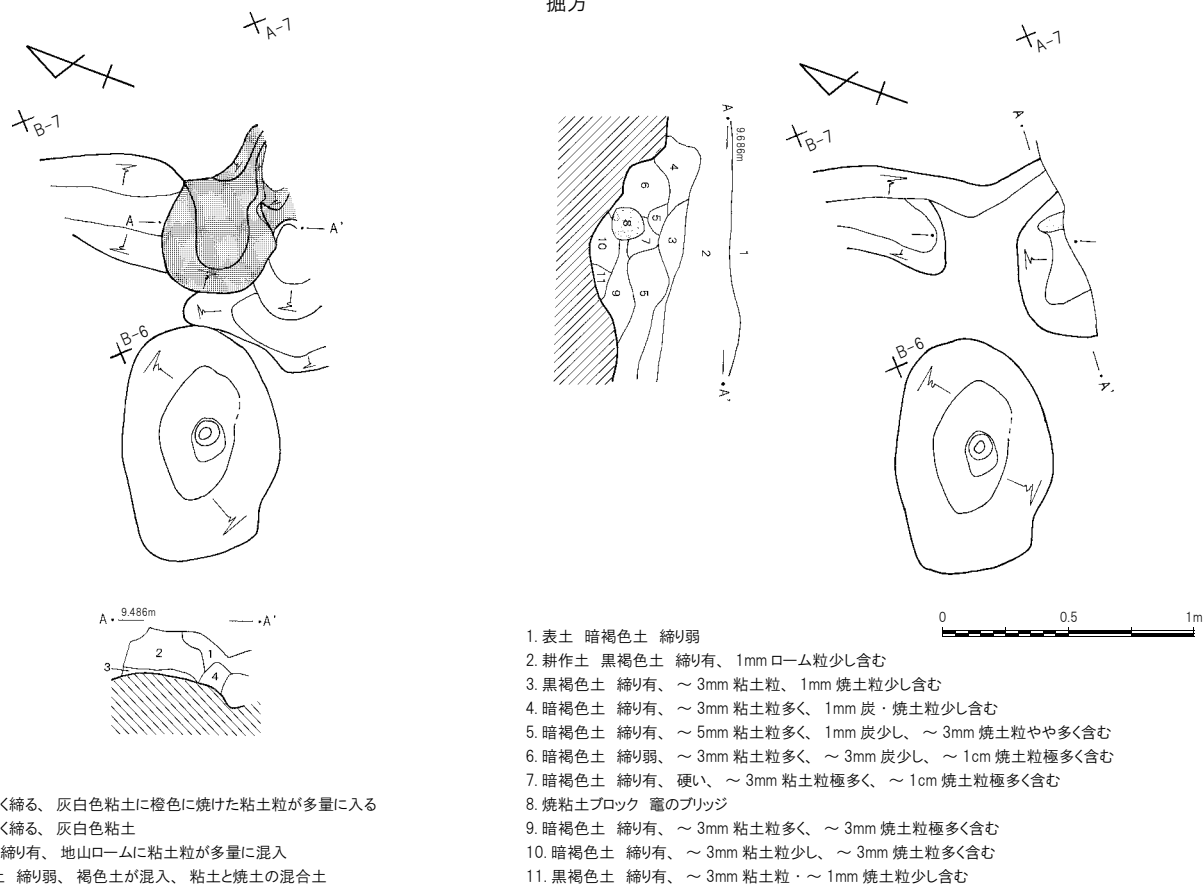
第 6 図 滝遺跡第 20 地点 H30 号住居跡・掘方・土層図 (1/60)

遺物出土状況図



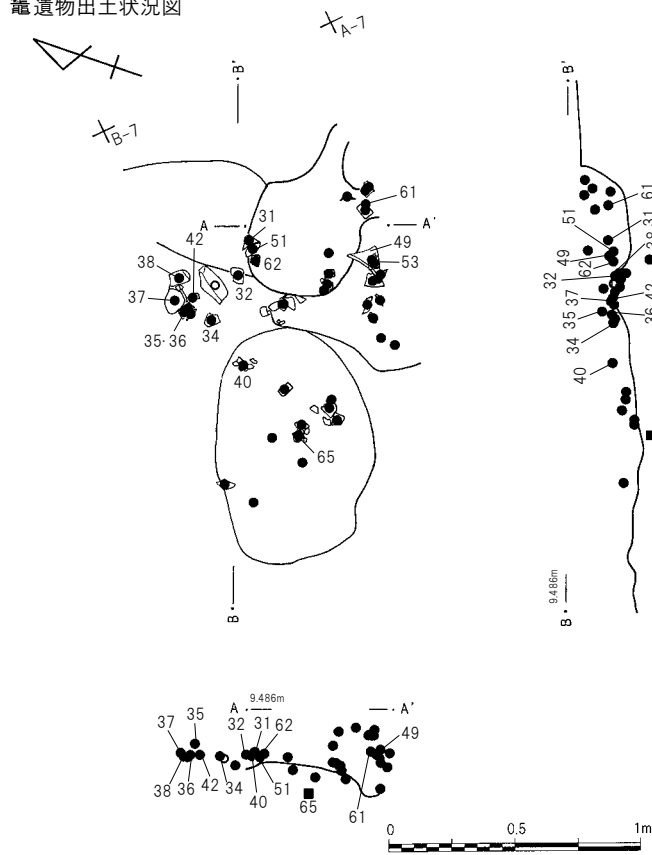
竈

掘方



第7図 滝遺跡第20地点 H30 号住居跡遺物出土状況図 (1/60)、竈・掘方 (1/30)

竈遺物出土状況図



井戸 1

1. 表土 耕作土 締り弱

2. 暗褐色土 締り有、5mm ローム粒多く、焼土粒少し含む

3. 暗褐色土 締り有、1 ~ 2cm 大ロームブロック極多く含む

4. 黒褐色土 締り有、5mm ローム粒少し含む

5. 包含層 黒褐色土 締り有、1mm ローム粒少し含む

6. 地山 茶褐色土

井戸 2

1. 黒褐色土 締り弱、1 ~ 2mm ローム粒・1mm 炭・1mm 焼土粒少し含む

2. 黒褐色土 締り有、1cm ロームブロック少し、~ 5mm ローム粒極多く含む

3. 黒褐色土 締り有、粘性やや有、~ 3mm ローム粒 ~ 3mm 少し含む

4. 黒褐色土 締り有、やや硬い ~ 3cm 大黒褐色ブロックが少量混入、~ 3mm ローム粒多く含む

土坑 1

1. 暗褐色土 締り有、1mm 粘土粒・炭・焼土粒少し含む

2. 黒褐色土 締り有、~ 5mm ローム粒多く、~ 5mm 粘土粒・1mm 炭・焼土粒少し、雲母片極少し含む

3. 黒褐色土 締り有、2 層と同じでロームが極少

4. 褐色土 締り有、地山

5. 黒褐色土 締り有、1mm ローム粒・粘土粒・炭・1 ~ 2mm 焼土粒少し含む

6. 褐色土 締り有、1cm 大褐色ロームブロック・1mm ローム粒・粘土粒少し含む

7. 黄褐色土 締り有、~ 3cm 大ロームブロック主体、暗褐色土混入

ピット 1

1. 暗褐色土 締り有、1mm ローム粒少し含む

2. 黒褐色土 締り有、硬い、1 ~ 2mm ローム粒多く含む

3. 黒褐色土 締り有、2 ~ 10mm ロームブロック・粒極多く含む

ピット 2

1. 暗褐色土 締り有、1 ~ 3mm ローム粒多く含む

2. 暗褐色土 締り弱、ローム粒極多く含む

3. 黄褐色土 締り有、硬い、ローム主体、黒褐色土混入

4. 黒褐色土 締り有、1 ~ 3mm ローム粒多く含む

ピット 3

1. 黒褐色土 締り弱、1 ~ 5mm ローム粒 1 ~ 5mm 少し含む

ピット 5

1. 黒褐色土 締り有、1 ~ 3mm ローム粒少し含む

2. 黄褐色土 締り有、硬い、黒色土混入

ピット 6

1. 黄褐色土と黒色土混入 締り弱

2. 黒褐色土 締り有、1 ~ 3mm ローム粒少し含む

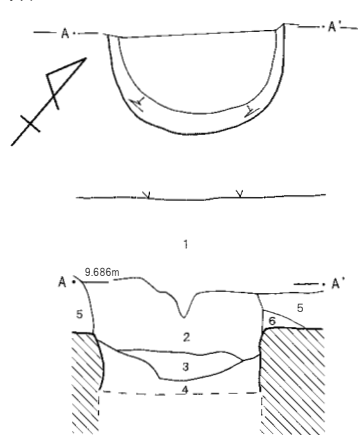
3. 黄褐色土 締り有、硬いロームとの混合土

ピット 7

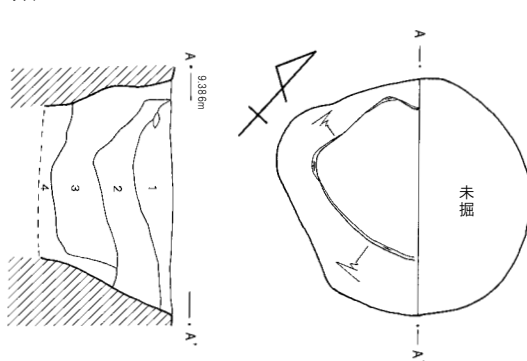
1. 黒褐色土 締りやや有、1mm ローム粒極少し含む

2. 褐色土 締り有、1cm 大ロームブロック斑状に混入

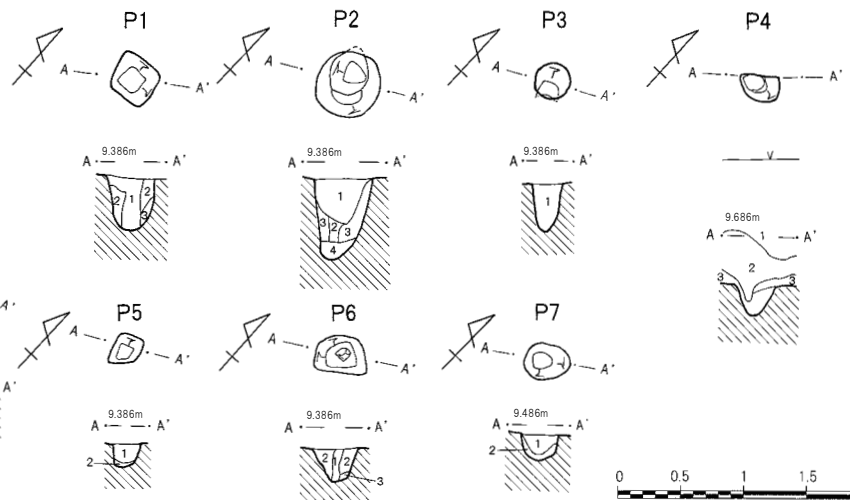
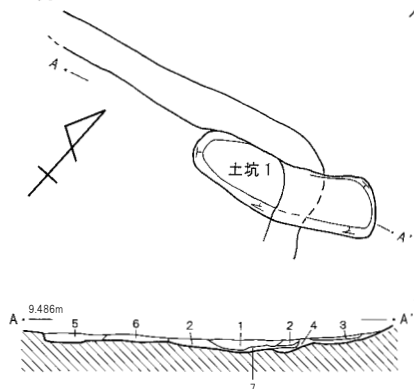
井戸 1



井戸 2

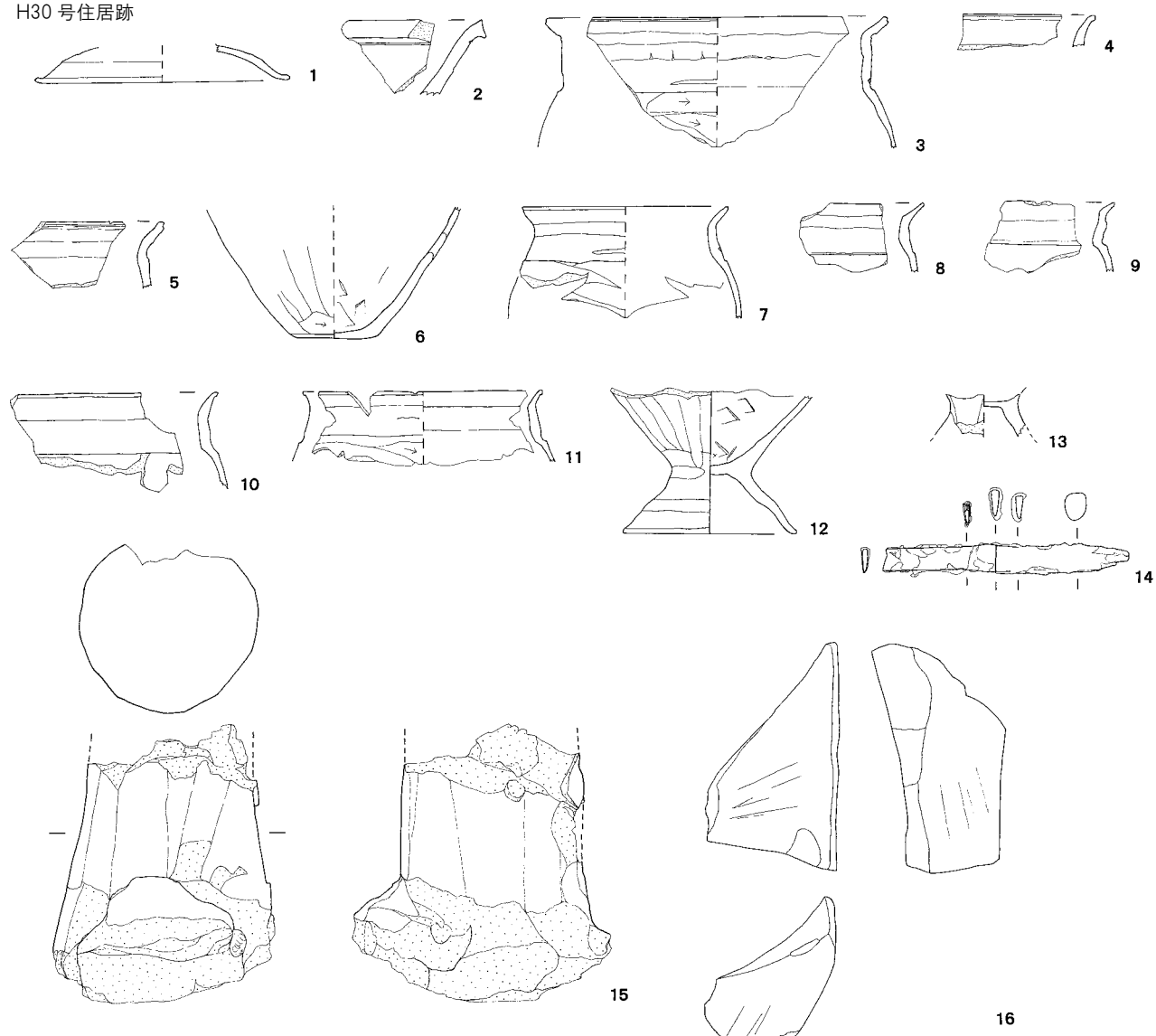


土坑 1

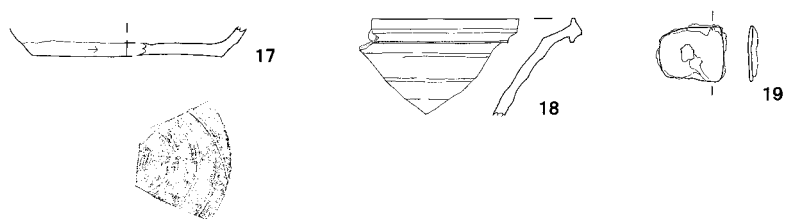


第 8 図 滝遺跡第 20 地点 H30 号住居跡竈遺物出土状況図 (1/30)、井戸・土坑・ピット (1/60)

H30号住居跡



遺構外



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10cm

第9図 滝遺跡第20地点 H30号住居跡出土遺物 (1/4)

⑤H 30 号住居出土遺物

1 は、須恵器皿形土器。2 は、須恵器壺の口縁部破片。1/10 現存、推定口径 20 cm。内面に自然釉がかかる。

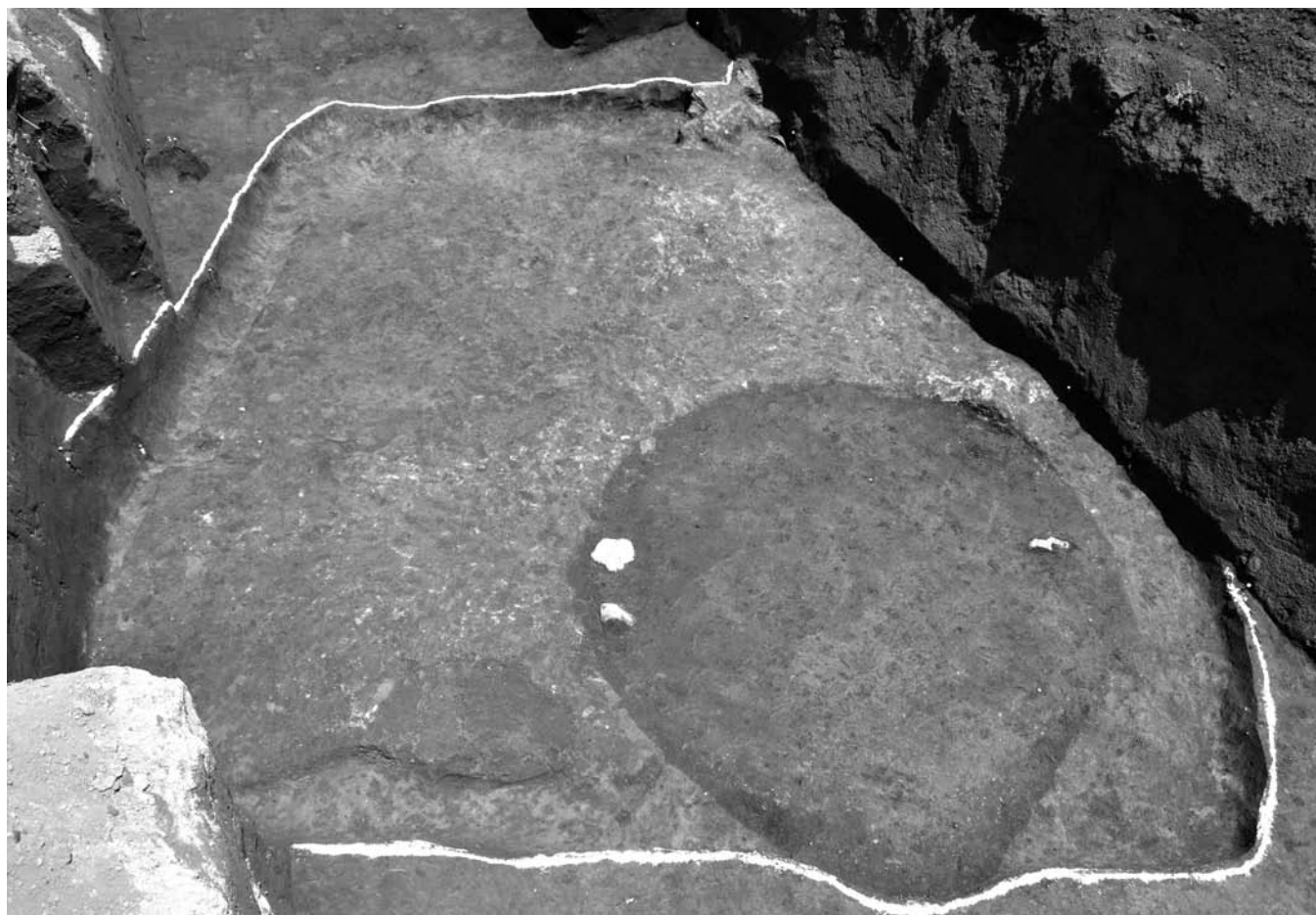
1 mm ほどの小砂利を多量に含み、白色針状物質を多量に含む。3 は、コの字状甕の口縁部、現存 1/4 口径 20 cm。内面に輪積み痕。口唇部先端に一条の沈線を加える。4・5 も同類の口縁部破片で、1/10 以下の破片。4 は口唇部先端は丸く処理され、5 は一条の沈線が加えられている。6 は上記の底部。7 は、1/4 現存の小形台付き甕、口径 12 cm。8～11 も小形台付き甕、8 は口唇部内面に強い押圧痕がある。9 は口縁部外面に強い押圧痕があり、口唇部は短い。10 は、現存 1/10、口径推定 15 cm 弱。口唇部外湾は少ない。11 は、現存 1/7、口径推定 14 cm。カマド出土。12 は、小形台付き甕、現存 1/3、底径 10.2 cm。13 は、小形台付き甕の台部破片。

14 は鉄製の刀子。切先が欠ける。柄部には木質部が残存する。長さ 14.3 cm、刃巾 1.39～1.64 cm、厚さ 0.5 cm、ナカゴ長さ 7.7 cm。15 は、支脚の破片、上半が欠損。円形になるように巾 3～4 cm で上方から下方に面取りをし、下端に粘土を残し、カマド燃焼部に埋置したもの。

16 は砥石。鉄器の研磨用と思われ、図示した上面・両側面の 3 面は同じような湾曲をしている。

⑥遺構外出土遺物

17 は須恵器環の底部破片。1/3 現存、底径推定 10 cm。底部全面回転ヘラ切り。底部側面も回転ヘラ削り。18 は須恵器壺の口縁部破片。1/10 現存、推定口径 20 cm。白色針状物質を多量に含む。後円部コの字状甕の口縁部。19 は鉄製鍛造品。右側は破断しているが、左側は縁が弧を描く。幅 2.9 cm、厚さ 0.35 cm。



H30 号住居跡 全景 (西から)



H30 号住居跡 掘方



H30 号住居跡 遺物出土状況



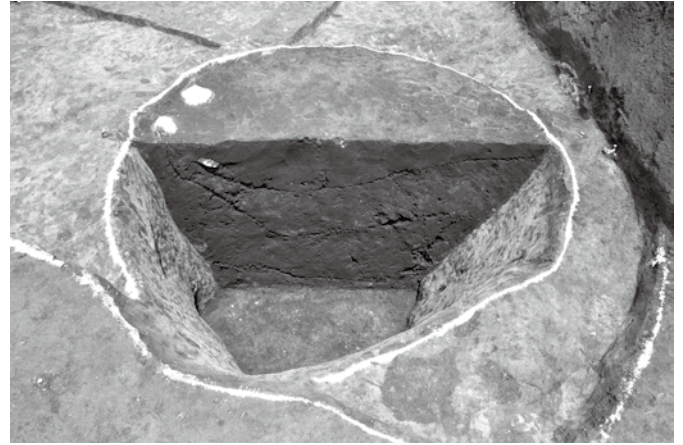
H30 号住居跡 刀子出土状況



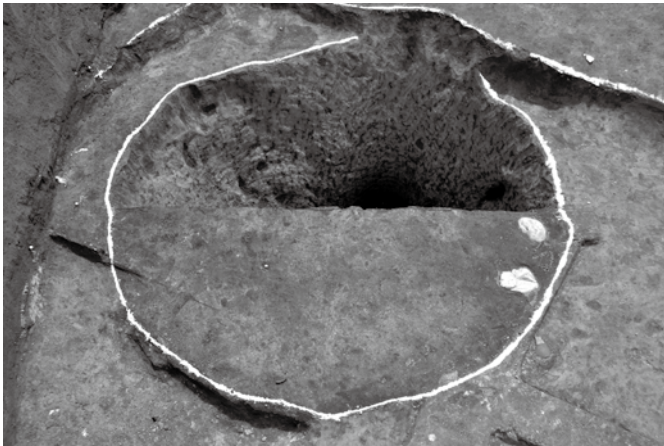
H30 号住居跡 竈



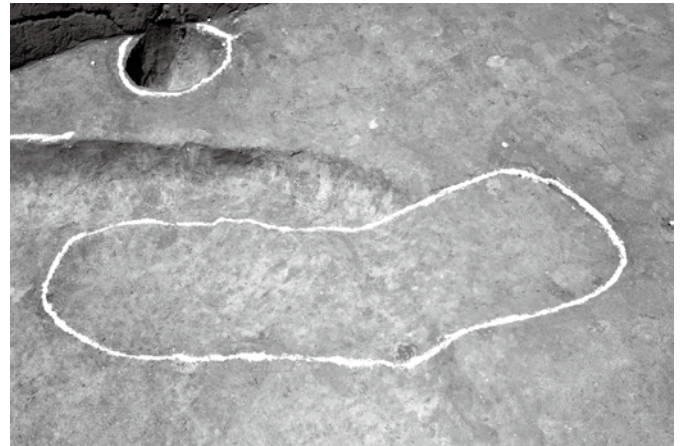
井戸 1



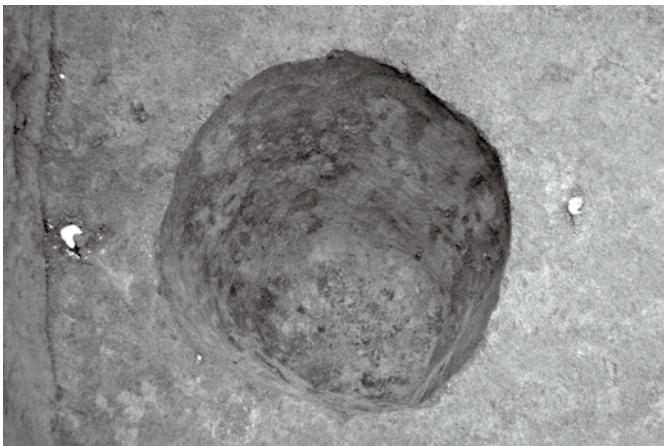
井戸 2



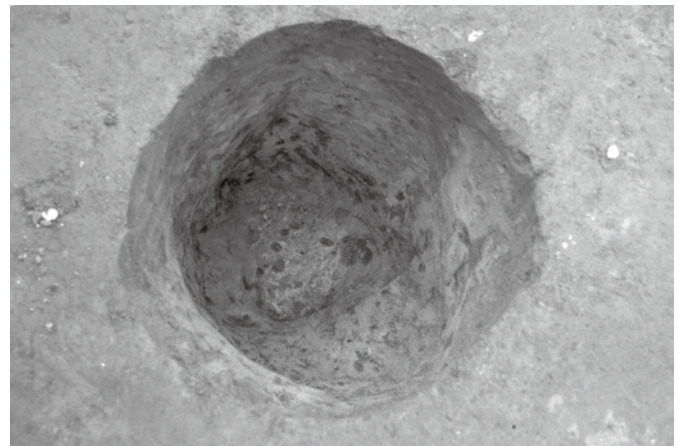
井戸 2



土坑 1



ピット 1



ピット 2



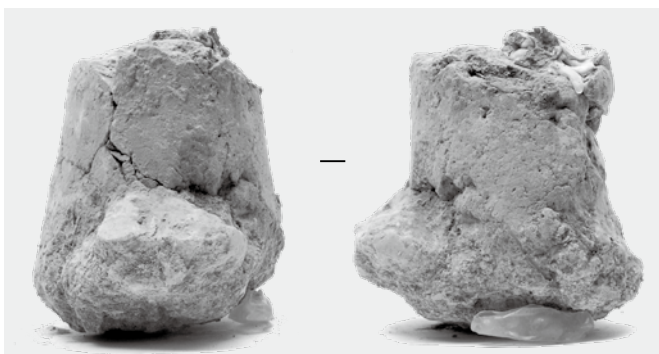
ピット 6



調査風景



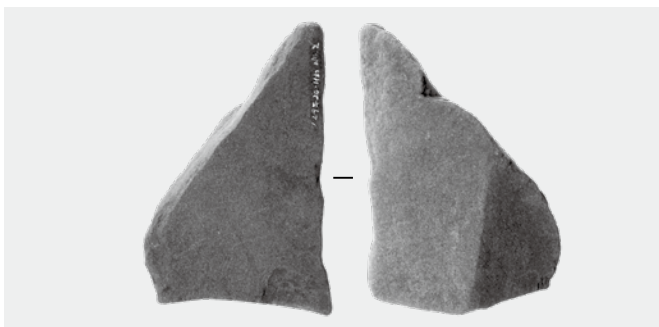
H30 号住居跡 出土遺物 No.12 罎



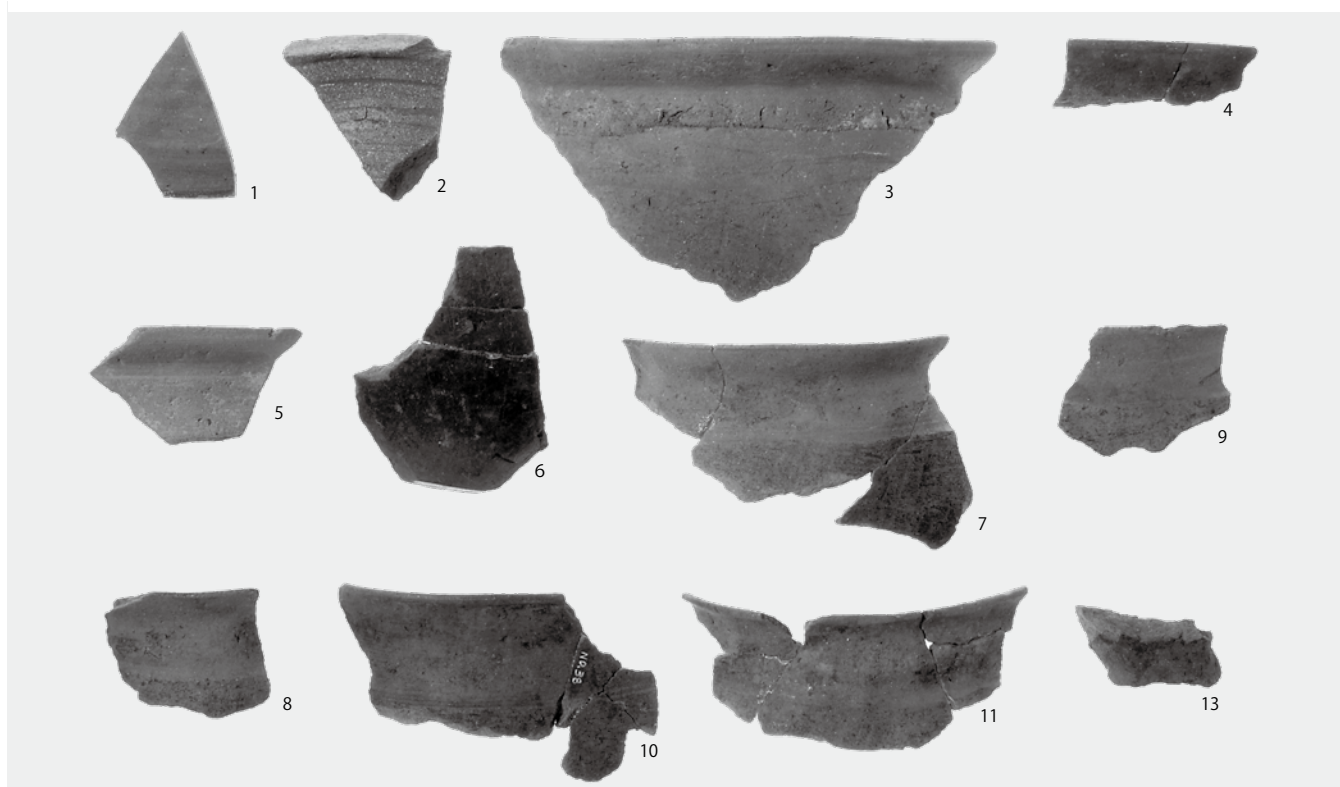
H30 号住居跡 出土遺物 No.15 支脚



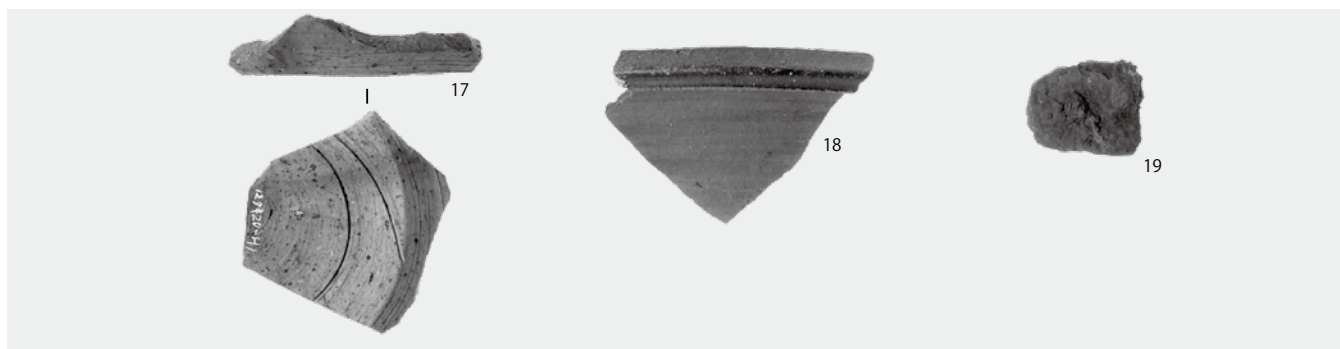
H30 号住居跡 出土遺物 No.14 刀子



H30 号住居跡 出土遺物 No.16



H30 号住居跡 出土遺物 No.1 ~ 11・13



遺構外 出土遺物 No.17 ~ 19